

Bridges

夏休み期間も、本校生が海外研修をはじめ、いくつかの国際交流事業に参加しました。今回は、参加生徒の感想文を中心にお伝えします。

I 国際交流事業参加体験報告

ドイツ留学体験報告 5年H組 N.S.

私は2015年第58期生としてYFUという留学団体のもと1年間ドイツで語学学習、又異文化体験を行いました。私はドイツに渡ってすぐ3週間OSKという語学研修を行いました。OSKとは1年間お世話になるホストファミリーのもとに行く前に10人程度のグループに分かれ、それぞれの指定された地域で基礎的なドイツ語、主に文法を中心に学習するシステムです。

約3週間のOSKを終え、私は Seeheim-Jugenheim という Hessen 州の南部に位置する小さな町に住んでいる1年間お世話になるホストファミリーのもとへ行きました。私のホストファミリーはホストマザー、ホストファザー、そして年下の2人のホストブラザーという家族構成で、さらにホストマザーとホストファザーが同じくYFUで学生時代にアメリカへ留学経験がある国際的な家族でした。

ドイツでは高等学校のシステムが主に3つあり、私が通っていた Schuldorf Bergstrasse はその中でも最も高度な Gymnasium というシステムの学校でした。主にその学校で取っていた教科は日本のものと同じでしたが、やはり新学期当初はドイツ語がよく理解できず苦労しました。そんな中でも自ら行っていた学校とは別にあるドイツ語を勉強するための Volkshochschule やインターナショナルスクールにあるドイツ語の授業を積極的に受けた甲斐があり、帰国する頃にはいくつかのテストではクラスの平均並みの点数を取ることができました。

ドイツでは学校単位ではなく地域単位でクラブがあり、私は学校の近くにバスケットボールのクラブがあったのでそのチームにスロバキアから来ていた留学生を誘い共にバスケットボールをしていました。チームメイトはとても親切で、なにもわからなかった私たち留学生にもわかりやすくゆっくり話しかけ、出場機会も与えてくれました。そしてそこで親友と呼べる友達もでき、今思えば私の留学生活で精神的な面でとても支えになってくれました。

この1年間両親のもとを離れて異国の地で学ぶことで、日本では体験することができない貴重な時を過ごし、また、自立する力を身に付けることができた、かけがえのない最高の1年間になりました。これからもこれらの経験を活かし世界で活躍できる人間になれるよう日々努めていきたいと思っています。

第33回海外研修体験報告 1 4年A組 O.H.

今年の海外研修の渡航先はアメリカ合衆国、ワシントンDC・NY・ボストンという誰もが知っている都市でした。まず、私が7日間過ごしたホームステイ先はランカスターという自然豊かな街で4人家族の家庭でした。事前に学内での英会話レッスンで日常会話の練習をしていましたので不安無くホストファミリーに直面することができ、生活面でも特に気を使うことも無く過ごすことができました。滞在中にはホストファミリーと川でカヤックに乗ったり、大型ショッピングセンターにも連れて行ってくれました。とても私に対して親切に接してくださいました。特に兄弟のいない私にとって、たった一週間の、それも異国の兄弟を持つことができたことは今ではかけがえのない宝物です。そして、東北学院の校祖であるW・E・ホーイ先生とD・B・シュネイダー先生の母校（フランクリン&マーシャル大学とランカスター神学校）にも訪問することができました。両校とも歴史のある立派な学校でした。

次にボストンに移動し、サフォーク大学という大学の寮にて7日間の寮生活を体験しました。自分達で洗濯をするなど慣れない事もありましたが皆と一緒に楽しく生活することが出来ました。ボストンプログラムではハーバード大学での英語研修授業とMIT（マサチューセッツ工科大学）キャンパスツアーなど充実した時間を過ごすことができ、とても実りのある体験でした。この研修で得た全てのことに感謝をし” 今後に活かして行くことが大切である” と気付いたことが私の最大の収穫です。

第33回海外研修体験報告 4年E組 N.T.

18日間も常に英語に触れていると、英語に対する気持ちが変わっていき、これからも英語に触れていきたいと思うようになったのは全員に言えることだと思います。

僕はこれから世界中に関わる仕事をしたいとは思っていましたが、初めは全く乗り気ではなく、むしろなんで参加しちゃったんだよ、と思うほどでした。しかし、当日に近づくにつれて知らぬ間に、参加しといて良かった、と思え、とても価値のあるものになったと思います。また、私たちは英語を勉強するためにアメリカに行きました。日常ではサフォーク寮以外では常に英語と接していたため、常に生の英語でトレーニングをしているような感覚で、とても大変でしたがその分とても良い経験をすることができました。

私たちはアメリカで得た経験をそのままにせず、これからより活かせるようにすることが大切になってきます。そのためには日々の努力の積み重ねが大切になってくると思いました。この18日間で得たことを忘れずに、これから生活していきたいです。

SMJ キャンプ体験報告 3年A組 K.Y.

私は家を出る前も出た後も緊張で心がいっぱいでした。初めての飛行機、初めてのアメリカ、そして何よりも、アメリカ在住の子ども達の輪に入れるかが心配でした。しかし、いざアメリカに行くと、その心配は杞憂に終わりました。アメリカの子ども達は、こんな無口な私にも気さくに話しかけてくれてものの一週間で親友のように仲が良くなりました。それから私はたくさんの

経験をしました。人生初めての魚釣り、西瓜割り、ロッククライミング、アメリカの食事など、日本から一度も出たことのない私にとって、とてもいい経験になったと思います。

ディスカバリーキャンプが終わって、アメリカ在住の子ども達と別れるときが着ました。二週間という期間は、始まったときには長く感じ、終わったときにはとても短く感じました。私はみんなと別れるときに思わず少し泣いてしまいました。一年後でも十年後でもいいのでまた彼らに会いたいと思いました。キャンプ後の三日間のニューヨーク観光では自分たちが寝る部屋がとてもメルヘンチックだったり、タイムズスクエアでは二つのグループに別れてしまったりなど多数のトラブルにあいました。しかし同時に、楽しい出来事もたくさんあり、インタービット博物館では、これとは別のアメリカ観光のグループがいけなかった空母の中に入れたり、スペースシャトルの複製と写真をとることができました。

このような貴重な体験ができたのは、このキャンプに献金をしてくださった方やほかのキャンパー、フォローしてくださった先生方またこのディスカバリーキャンプに私を導いてくださった神様のおかげです。このとてもすばらしい経験を踏まえて、これからの自分の学業にいかして生きたいです。

TOMODACHI プログラム体験報告 6年D組 S.K.

私は7月24日から8月6日までアメリカのロサンゼルスに2週間行ってきました。「TOMODACHI プログラム」というのはアメリカ政府と日米カウンシルという日本人とアメリカ人の交流を支援する団体が、東日本大震災が起こった際に被災地支援のために活動している団体が主催したプログラムです。様々な活動があるなかで私はアメリカとの異文化交流をするプログラムを選びました。2週間の滞在期間のうち、1週間はアメリカの文化を学び、またアメリカと日本の交流の歴史を学びました。もう1週間は実際にホームステイをして、アメリカの文化について学び、経験することができました。

アメリカと日本の交流の歴史についてですが、第二次世界大戦中にアメリカ在住の日系人は約4年間壁に隙間の空いた木造の収容所に収監されていました。また、ハワイでは日系人がアメリカへ誠意を表すためにアメリカ軍に入り、ヨーロッパで勇敢に戦ったそうです。この事実を私は全米日系人博物館で初めて知りました。今までの私を含めてこの事実を知っている人は全然いないと思います。ぜひ、皆さんにもこのような悲しい過去があったことを知っていて欲しいです。そして、後世に語り継いでいって欲しいです。そのほかにも、アメリカで活躍する企業訪問や日系人の方が営んでいる農場でルーツなどお話をお聞きしました。現在私たちが気軽にアメリカに行けるのはこのような人たちが必死に頑張ってきたからだと感じることができました。

私はロサンゼルス近郊にあるロングビーチのマッカーシー家にホームステイしました。ホームステイしていて一番驚いたことは夜になっても、あまり電気をつけないということです。夜10時頃に皆でテレビを見ていた時に暗くてもホストファミリーは気にせず見続けていました。後で、なぜかを聞いたところ「あまり明るいのが得意でなく、アメリカでは大体の家が暗いよ」と言っていました。多分、外でよくサングラスをかけているのもこの事が影響しているかもしれません。ホストファミリーは私に気をつかってくれて、初めての慣れない環境でしたが楽しい時間を過

ごすことができました。また、今回のプログラムで私は自分の生きている世界の小ささに気づき、もっとアメリカ以外の国々についても知りたいと思うようになりました。今後も積極的に国際交流を行い、自分の世界を広げ、広い視野を養いたいと思いました。

Ⅱ 交換留学生の紹介

8月25日から、来年の6月9日まで、ブラジルからの交換留学生と一緒に学んでいます。クラスは4Fです。将来はエンジニアを目指しています。よろしくおねがいします。

交換留学生自己紹介 Theo（テオ君）

はじめまして。ぼくはテオです。16才です。ブラジルから来ました。今、ぼくは日本にきて2ヶ月です。それですべてがあたらしいです。いっぱいおいしい食べ物があります。いろいろ楽しい場所があります。すべてはじめてですから行ってみたいです。

日本の学校とブラジルの学校は違います。ブラジルは午後にクラスがありません。だから、スクールが午後にあります。たとえばサッカーのスクールです。

仙台はすすしい街です。ブラジルでは雪がありませんから、雪を見たいです。ぼくのホストファミリーは楽しいです。彼らといっしょにおもしろい場所に行きました。

大学はブラジルの大学に入って、大学院で日本に来たいです。

※今回の受け入れは、本校のホストファミリー登録制度が機能した成果です。本校を訪問してくれる留学生が増えれば、皆さんの学校生活をより豊かなものにする一助となると思います。これからもホストファミリー登録へのご協力をよろしくお願いします。

Ⅲ 第34回海外研修について

第34回海外研修の実施要領がまとまりました。詳細については、本日の奨学会で配布されるプリントをご覧ください。初めての海外体験になる生徒・保護者の方にとってはいろいろ心配な点もあるかと思います。どうぞお気兼ねなく、国際交流委員までお問い合わせ下さい。

Ⅳ 国際交流委員会主催 英会話教室について

国際交流委員会では、国際交流の活性化、また、英語運用能力の向上のため、英会話教室を実施しています。積極的に参加して下さい。

【担当者】ケビン・ウェルチ先生

【実施方法】個人レッスンまたは少人数のグループレッスン（5月からは事前予約制）

【実施曜日】月曜日～金曜日

【実施時間】昼休み12:55～13:15 放課後15:20～16:50

1人（1グループ）20分程度

【実施場所】英語教室（保健室となり）